

情動 - からだと心を動かすもの

下條信輔

(カリフォルニア工科大学; 科学技術振興機構下條潜在脳機能プロジェクト)

1. 情動とは何か？

感情を起させる、身体生理的メカニズム。主に潜在(無自覚)的。
ヒトの行動の理不尽、社会制度の不合理的の源。
理知的、合理的、功利的な古典的人間像。記号的、論理的、分析的、表象的な知性
→それらを超えたところに、人間の本質があるのではないか。

現代社会の特質も、情動と潜在認知の文脈で理解できる。
現代社会＝情動と潜在認知に訴える技術が進化した社会。

2. 現代社会は危険な斜面にさしかかっている (1) コマーシャリズム

コマーシャリズム、マーケティングにおける刺激の過剰と、選択肢の制御。
ニューロエコノミクス、ニューロマーケティング
→消費者の選択は自由か？(注意経済 vs. 報酬)

3. 現代社会は危険な斜面にさしかかっている (2) 政治

eg. (1) ホームランドセキュリティとテロ注意信号。
(2) 選挙と顔の関係(トドロフらの研究)。

4. 自由と強制

神経科学を押し進めると、決定論(強制、制御)が勝つ。
「運動準備電位」ー自由意思に基づく行為でさえ。

自由と強制(制御)は、本当に背反的か。むしろ両立するのではないか。
現代人の意思決定は、ますます状況依存的、履歴依存的とならざるを得ない。
そのことはただちに、自由と制御の接近、重複をも意味する。

5. 想像力と創造力

自由を実感するのはどういときか。
→ 他行為可能性、他意志可能性(を想像する力)に依存。
想像する力は、体感的な記憶と動機(モチベーション)に依存する。

潜在認知とクリエイティビティ(創造性)。
独創的な発見がそもそも可能なのは、どうしてか。
初めてであり、かつ再認感を持って認定されるのはどうしてか)。
→ 暗黙の知恵、潜在的な情動、認知過程の豊かさを認めざるを得ない。

結論: 私たちは、自由と制御が平気で併存する近未来社会を生きることになるだろう。
情動と潜在認知の比重がますます大きくなり、それ故また、それらのより深い理解が鍵となるだろう。